

## 『レモネードの法則』

株式会社アインズラボ 代表取締役  
多賀 麻利恵

私は現在社会人大学院で経営学を学んでいますが、そこで知った「エフェクチュエーション」という理論についてご紹介したいと思います。

エフェクチュエーションとは、起業家に見られる思考プロセスや行動パターンを体系化した意思決定理論のことで、サラス・サラスバシー氏が2008年に提唱したものです。従来の戦略上の意思決定は、未来を予測し目標を立て因果推論的に行われる「コーゼーション」と呼ばれるアプローチが一般的でした。一方不確実性の高い現代において、所与の資源や手段を用いて結果を創り出していくことを試みるのが、エフェクチュエーションのアプローチです。

今回は、エフェクチュエーションの5つの原則のうち、「レモネードの法則」について考えてみます。「レモネード」の原則 (Lemonade Principle) とは、「レモンを掴まされたら、レモネードを作れ」(when the life gives you lemons, make lemonade、レモンには粗悪品、欠陥品という負の意味もあります)という諺をもとにしたもので、困難をチャンスと捉えて成功へ導くことを意味します。予期せぬ事態に直面した際、それを機会と捉えて活用し新たなチャンスを作り出していこう、という考え方です。

私はこの理論を学んだとき、これはキャリアや人生における意志決定においても有効なアプローチかもしれないと感じました。自身のこれまでを振り返ると、ライフイベントにより仕事や居住地の変化があり、振り返れば良いきっかけだったと思えることも、渦中にある際は道筋が見えず不安も多かったです。この理論を知っていれば、不測の事態や環境変化に対してもっと前向きに取り組めたかもしれない、と思います。変化に対して主体的に取り組むことは、自分自身の人生に対するリーダーシップの発揮と捉えることも可能かもしれないと思い、ご紹介しました。

エフェクチュエーションが気になった方は、是非残りの4つの原則についても調べてみて下さい。